

7 戦略目標と施策実施方針

7-1 都市交通の将来像実現のための戦略目標

弥富市が目指す都市交通の将来像を実現するために、今後実現すべき戦略目標を設定します。

また、戦略目標として本市の交通課題に対応した、以下の4つの目標を設定し、各戦略目標において実施する施策の方針を定めます。

都市交通の将来像

地域が繋がりがりがにぎわう、快適な都市交通の実現
～移動環境が整ったまち・弥富～

都市交通の課題	戦略目標
①交通結節点機能の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・アクセスの良さを活かした公共交通利用促進 ・駅周辺施設のバリアフリー化 ・公共交通乗り継ぎ利用者のための乗降場の整備 	1. 「交通結節点でのにぎわいを生み出す多様な移動環境づくり」 <p>方針1 にぎわいを創出する弥富駅の交通結節機能の強化</p> <p>方針2 多様な移動環境に対応した駅周辺のバリアフリー化</p>
②将来の動向を見据えた公共交通網の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許返納者に対する移動支援 ・地球温暖化抑制のための公共交通への利用転換 ・公共交通空白地域における公共交通移動環境の創出 ・公共交通体系の再構築 ・市外移動における公共交通相互の連携 	2. 「誰もが快適に利用できる公共交通ネットワークによる移動支援づくり」 <p>方針1 人々の日常の移動を支える公共交通の利便性向上</p> <p>方針2 周辺自治体との広域公共交通ネットワークの形成</p> <p>方針3 誰もが快適に利用できる多様な移動支援策の拡充</p>
③高齢化の進展に備えた移動支援策の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの活用による外出しやすい環境づくり ・交通弱者に対する移動支援策の拡充 	
④都市間や地域間連携強化に寄与する道路ネットワークの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ボトルネックとなる路線や踏切の渋滞解消 ・未整備都市計画道路の整備 ・都市間や地域間連携強化に寄与する道路ネットワークの整備 	3. 「都市拠点や地域生活拠点を中心に周辺都市や各地域を効果的に結ぶ道路体系づくり」 <p>方針1 周辺都市や各拠点間を結ぶ道路ネットワークの強化</p> <p>方針2 ボトルネックの解消による交通の円滑化</p>
⑤安全性向上及び防災に寄与する道路空間の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者や自転車が安全、安心して快適に通行できる環境の形成 ・狭あい道路の安全性・防災性の向上 	4. 「移動しやすい安全・安心で快適な道路空間づくり」 <p>方針1 移動しやすい歩行者・自転車空間の連続性確保</p> <p>方針2 安全・安心な道路環境形成に向けた防災・減災対策の推進</p> <p>方針3 多様な移動環境における交通安全の意識向上</p>

7-2 戦略目標に基づく施策実施方針

1. 「交通結節点でのにぎわいを生み出す多様な移動環境づくり」

JR・名鉄・近鉄の鉄道3路線が交わる弥富駅では、鉄道やコミュニティバス、タクシーの公共交通だけでなく、自動車、自転車、徒歩など多様な交通手段がアクセスし、乗り継ぎができる結節点として、誰もが効率的かつスムーズに移動できる環境づくりを進めます。また、2つの駅の連絡性を向上させ、すべての市民が利用しやすい交通環境の整備を図ります。

方針1

にぎわいを創出する弥富駅の交通結節機能の強化

各交通機関相互間の乗り換え及び歩行が効率的かつスムーズに移動できる乗り換え機能の円滑化を図ります。また、まちの顔としてふさわしい空間としてランドマーク的機能を向上させ、駅利用者や市民が集い・交流するためのにぎわい空間づくりに向けて交流・サービス機能の拡充を進め、弥富駅の総合的な交通結節機能の強化を図ります。

方針2

多様な移動環境に対応した駅周辺のバリアフリー化

駅周辺のアクセスについて、公共交通、歩行者、自転車等多様な交通手段に対応し、駅構内、駅前広場等施設のバリアフリー化を図るとともに、ユニバーサルデザインの視点から、すべての人が円滑に移動できる利用しやすい交通環境の形成に努めます。

2. 「誰もが快適に利用できる公共交通ネットワークによる移動支援づくり」

「弥富市地域公共交通網形成計画」（令和3年度より「弥富市地域公共交通計画」に計画名称変更）に基づき、持続可能で利便性の高い地域公共交通網を展開するために、まちづくりと連携した地域公共交通の確保・維持・改善に向けた事業を推進します。

公共交通網の再編も含めた地域特性や利用特性に応じた運行の効率化や、タクシーや福祉施策等と連携した移動手段の提供により、公共交通空白地域を解消し、自ら移動手段を持たない人に病院や商業施設等への日常的な移動手段を提供し、気軽に外出ができる環境の形成を目指します。

また、周辺自治体が運行するバスも含め、各公共交通相互の乗り継ぎ利便性の向上や、高齢者等の料金負担の軽減による利用促進などにより、使いやすい地域公共交通網の形成を目指します。

方針1

人々の日常の移動を支える公共交通の利便性向上

公共交通の重要性が増すなか、都市間の交通を担う各鉄道路線の利便性向上に努めます。弥富市コミュニティバス（きんちゃんバス）についても、地域内の移動を支える交通手段として多くの市民が使いやすくなるよう、その利便性向上に努めます。

方針2

周辺自治体との広域公共交通ネットワークの形成

周辺自治体にある主要な駅や施設、鉄道また周辺自治体の運行するバスをつなぎ、広域公共交通ネットワークを形成します。

各公共交通相互の乗り継ぎ環境の改善や利便性の向上を目指し、周辺自治体と連携して、広域公共交通ネットワークの連携強化を進めます。

方針3

誰もが快適に利用できる多様な移動支援策の拡充

運転免許証を返納した高齢者や自ら移動手段を持たない人、一人での外出が困難な高齢者や障がい者等の外出移動機会の創出のため、タクシーや福祉施策など各種移動支援策を拡充させ、公共交通空白地域を解消し、地域住民の日常生活の利便性を確保します。

3. 「都市拠点や地域生活拠点を中心に周辺都市や各地域を効果的に結ぶ道路体系づくり」

弥富駅・弥富市役所周辺区域の都市拠点や佐古木駅周辺、支所等を中心とした区域の地域生活拠点を中心に、多くのヒトやモノの交流・流通を支える東名阪自動車道弥富IC、伊勢湾岸自動車道湾岸弥富IC及び弥富木曾岬IC、南部地域の名古屋港（弥富ふ頭及び鍋田ふ頭）の物流・交通拠点、ふれあい・交流の拠点である緑の交流拠点やにぎわい交流拠点を効果的に結ぶ地域内ネットワークを形成します。

そのため、市内における利便性の高い、円滑な地域内交通ネットワーク構築に向けて、骨格となる道路網の形成を図ります。

方針1

周辺都市や各拠点間を結ぶ道路ネットワークの強化

広域交流基盤の強化のため、市内南北方向の道路網の充実、市街地の拠点機能の強化を見据えた道路整備を進めます。

交通量の増加や車両の大型化、そして高齢化が進むなかで、より一層安全で便利な道路網・道路環境を推進するため、市街地の骨格となる既決定の都市計画道路の整備を進めていきます。また、長寿命化を目指した維持管理の強化を図ります。

地震への備えをはじめ、災害時の避難や救護活動に資する、さらなる広域的な道路ネットワークを構築するため、緊急輸送道路や重要物流道路に位置づけられている道路の十分な幅員や構造を確保した整備を推進します。

方針2

ボトルネックの解消による交通の円滑化

市内の円滑な移動を確保するため、慢性的な渋滞が発生する交差点や踏切道について、現地の特性に適したハード・ソフト対策を組み合わせ、渋滞の解消、交通流の円滑化など機能強化を図ります。

4.「移動しやすい安全・安心で快適な道路空間づくり」

高齢化の進行に伴い、過度に自動車に頼らず歩いて暮らせる都市を実現するために、自動車のための整備だけでなく、歩行者・自転車のための道路空間づくりを目指します。

また、災害時に防災・減災に対応できる安全・安心な道路空間づくりや、交通事故を減らすための対策も施していきます。

方針1

移動しやすい歩行者・自転車空間の連続性確保

誰もが安全で快適に暮らせる都市の実現に向けて、歩行者・自転車が安心して利用できるよう連続性のある歩道等の整備など、安全な道路の整備を進めます。

方針2

安全・安心な道路環境形成に向けた防災・減災対策の推進

災害時の避難路として、避難対象地域の住民等が避難対象地域の外や、指定緊急避難場所等の避難場所へ迅速かつ安全に避難行動がとれることを考慮し、安全性の確保と機能性の確保、有効幅員の確保に努めます。

また、地震や津波が発生したことによる、家屋の倒壊、火災の発生、橋梁の落下等の二次災害を防ぐため、狭あい道路やブロック塀の安全対策、橋梁の点検・修理の実施によるメンテナンス等、防災・減災対策を推進します。

方針3

多様な移動環境における交通安全の意識向上

子どもや高齢者を事故から守り、誰もが安全に安心して外出できるよう、保育所、学校、高齢者団体等との連携のもと、徒歩、自転車、自動車等各交通手段における交通安全教育や啓発活動等を推進し、交通安全にかかる市民の意識を高めます。